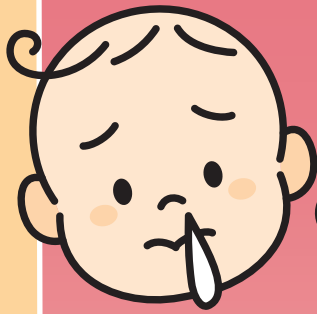


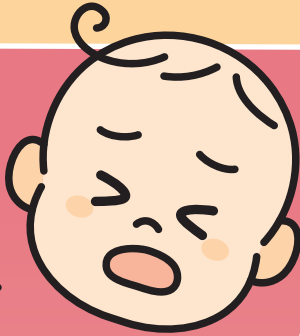
# RSウイルス感染症

に注意しましょう

こんな症状がみられます



鼻水



せき



発熱

かぜのような症状が数日続き、多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は、**細気管支炎、肺炎**などを起こします。

生後6カ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには重症化の可能性が高まります。

流行時期

近年は夏から増加傾向となり秋にピークがみられていました。一方、2021年以降は春から初夏に継続した増加がみられ、夏にピークがみられています。

感染経路

飛まつ

接触

2歳までにほぼ全員が少なくとも一度は感染します。

こんな時は

機嫌がよく、つらそうでなければ、あわてずに様子を見て、かかりつけ医にご相談ください。**呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時は医療機関への受診**をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「**こどもの救急**」などのWebサイトを参照したり、**#8000(こども医療電話相談)**にご相談ください。



こどもの救急

予防

水と石けんでの手洗い



手やおもちゃなどのアルコール消毒

症状がある時は可能な範囲でマスク着用



こどもを感染症から守るために、家族や周囲のおとなもしっかりと予防しましょう。

生まれてくる子の予防を目的に妊婦に接種するワクチンが薬事承認されています。詳細については、医師にご相談ください。また、高齢者が感染すると重症化することがありますので注意してください。

